

2021年度プロジェクト研究
「山本鼎の部屋資料のデジタル化」
最終発表

J19059 中澤愛華

○地域の課題

- ・山本県の部屋の存在が知られていない
- ・展示・保管されている資料を児童ですらあまり見ない

○研究目的

- ・いつでもどこからでも誰でも資料にアクセスできるようにする
- ・小学校でタブレット端末を用いた学習に役立ててもらう

○前期の活動内容

- ・デジタル化の提案書作成
 - ・マルチメディア情報センターのHPに載っている昭和初期の神川小学校の児童の絵を閲覧
- きれいに整理されていて見やすいが、制作年や学年、作品名が書かれていないので、いつ、誰が描いた作品なのかわからない

○後期の活動内容

- ・「神川・山本鼎の会」に加入し、月1回の役員会に参加
- ・地域学習の授業計画
- ・「神川・山本鼎の会のサイト」の作成

<https://d-commons.net/uedagaku/kangawayamamotokanaenkai1014>

- ・デジタル化を神川・山本鼎の会の方々に提案
- ・山本鼎版画大賞展鑑賞(11.8)

- ・ 神川児童自由画作品の名札貼り(11.26)
- 制作年、学年、氏名を書くことで、いつ、誰が描いた作品なのかわかるようにした

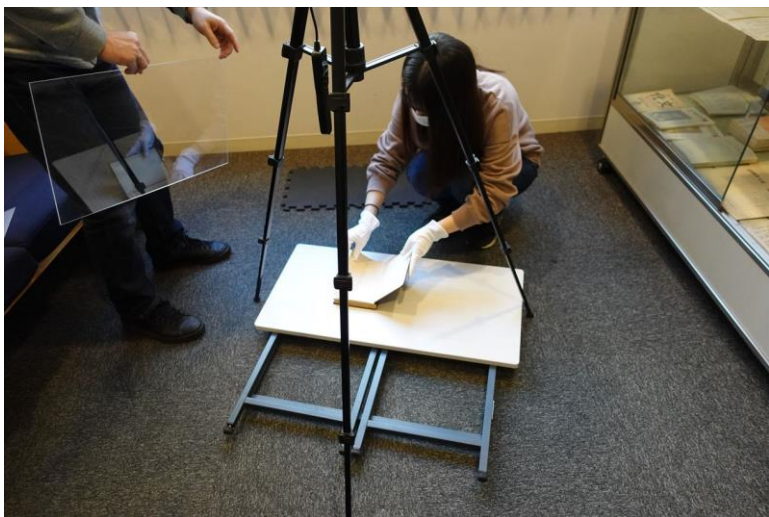


- ・ 深町さんへのヒアリング(12.28)
- ・ 神川・山本鼎の会の方々へのヒアリング(1.5)

- ・ 自由大学資料のデジタル化(12.3)

「上田自由大学デジタル資料館」の作成

<https://d-commons.net/uedajiyu>



- ・ 山本県の部屋資料のデジタル化(1.14)
「山本県の部屋アーカイブ」の作成

<https://d-commons.net/ykanae/>



○振り返り・まとめ

- ・「神川・山本鼎の会」に加入しお話をうかがう中で地域をより知ることができた
- ・昨年から取り組んでいた山本鼎の部屋資料のデジタル化が形になったので良かった
- ・地域学習の授業計画は進めることができなかった

○今後の取り組み

- ・「山本鼎の部屋アーカイブ」を児童が見やすいように漢字にふりがなを振ったり、キーワードを追加して資料を探しやすくする

- ・地域学習の授業を行う

①昭和初期の児童が描いた絵をタブレットで見ながらその絵に描かれた場所を実際に探し、昔と今を比べてみる

②自分が感じたものが尊いという山本鼎の自由画教育にならい、自由に絵を描いてみる